

○ 今月のみことば

N. J

『喜んで与える人を 神は愛してくださるからです』 (コリントⅡ9-7)

5月と言えば「聖母月」、学園のまわりを見わたせば、マリア様をたたえるように色とりどりの花が咲きそろっています。

私の楽しみの一つに、孫と過ごす時間があります。ボールを転がしたり、本のページをめくったり、手をたたいたり、遊ぶというよりは遊んでもらっているというのが正しいかもしれません。やがて、今やっている遊びに飽きて駄々をこね始めます。そんな時、孫の視線の先を見ると、必ずと言っていいくらい母親を見つめています。まだ言葉はしゃべれませんが、母親に何かを伝えようとします。あるときは視線で、あるときは手招きで、またあるときは泣くことで自分の気持ちを伝えようとします。そして、母親は子供の気持ちを察してその呼びかけに答えます。その姿は、手を合わせて祈りをささげる子供と、それを受け入れるマリア様の姿のように思えました。

先日、「からだで 祈ろう」という絵本を見つけました。その一部を紹介しましょう。

両手を使っているとき、こんなお祈りをします。

「かみさま わたしはあなたのことを かんがえます。せかいのなかで きょうも はたらいていらっしゃる、あなたのことを。」

歩いているとき、こうお祈りしてみます。

「かみさま あなたのことをかんがえます。いつも いっしょに あるいてくださるあなたのことを。」

お祈りは、種子(たね)のようです。

お祈りのとき 私の心の奥底に 神さまのはたらきが 種子のように芽を出します。

やがて葉をつけ 花を咲かせて 実を結びます。

小さいこどものように。

「かみさま わたしは おかあさんのひざのうえ ちっちゃなこのように あんしんして あなたのそばにいます。」

こどもは、欲しいものがあるとき、抱っこしてほしいときは腕を伸ばします。嫌なときは腕をひっこめます。うれしければからだをゆすってみたり、その場でぴょんぴょん飛び跳ねたりします。『からだ全体で祈る。それは、子供のように喜びをもって祈ること。』

さあ、皆さんも小さかった頃を思い出して、子供の心で、マリア様そしてホアキナ様に祈りをささげましょう。

生徒の心に語り掛けたいこと

音楽科

O. H

「あなたの先生は、あなたに一番大切なことを教えてくれる方なのね」ある偉大なピアニストが、私の演奏を聴いて最初にくださった言葉です。もう10年近く前のことですが、その頃私は自分自身の演奏にも、仕事にも、ピアノを教えてくださいと先生にも、そして何より自分にも自信を無くしていました。そんな中、なにか新しい発見があるかもしれない・・・と私は、宮崎県で行われたピアノの講習会に参加したのです。そこで出会った一人のピアニストの前で、不安いっぱいの中、演奏した時に彼女は笑顔で拍手をしながら、最初の言葉を私にくださいました。私にとって、その言葉は「上手だった」とか、「すばらしい！」などの私を褒めてくださる言葉よりもずっと、私を救ってくれる言葉でした。

理科の授業で「食物連鎖」という言葉を習うと思いますが、私たちはいつも与え、与えられながら生きています。それは、食べものだけでなく知識も感情も同じです。そして、私た

ちは意識の中でも、無意識の中でも、その「与え 与えられるもの」に対し、信じる心を持っていると思います。信じることが出来るからこそ、毎日の食事ができ、毎日電車に乗ることができ、毎日勉強することだって出来るのだと私は思うのです。もし、「信じること」に不安をかんじてしまったら・・・その時は自信を無くす事しかできませんよね・・・。

でも、私は思うのです。みんな誰だってそういう日はあります。ドラえもんの親友のび太が「もうだめだー！ぼくは世界一不幸な少年だー！！」といつも言うように、誰だって不安な日も、誰かを信じられない日も、嫌いになる日も・・・いつだって誰だってそんな日はあると思うのです。でも、悩むだけ悩んだら、のび太の隣りにいつもドラえもんがいてくれるように、「どこでもドア」のようなひみつ道具は持っていなくても、あなたを助けてくれるひみつ道具を持った「あなたのドラえもん」がきっと現れます。

いまでは家族のように大切な人となった偉大なピアニストが、私にとってのドラえもんだったように、みなさんにも、そっとひみつ道具をだしてくれる「あなたのドラえもん」が現れること、そしてみなさんが「だれかのドラえもん」になることを、私は心から願っているのです。そうそう、最初のピアニストからの言葉には続きがあるのです。

「あなたの音は、とてもあたたかいわね。音楽には、絶対欠かせないものよ」
みなさんのあたたかい声の合唱コンクール、とっても楽しみにしています。